

富里すいか100年

今年は、富里ですいか栽培がはじまって100年を迎えます。

この節目を契機に「富里すいか」の更なる発展を目指すとともに「元気なまちとみさと」を発信し、日本全国に元気をお届けします。

☎農政課 ☎(93) 4943



富里すいか 100 年の歴史

● 大正末期 栽培の始まり

大正 15 年に 1 件の農家が 0.5 ヘクタールを栽培したのが始まりで、翌年には、3 件の農家による 0.85 ヘクタールの共同栽培が行われました。富里では、当初から共同栽培・共同出荷が実施されており、市場価値を高めるうえで大きな力となりました。

● 昭和初期 すいかの産地として確立

昭和 8 年には、県農事試験場で新たな品種が作成されたのを契機に、富里を中心として、すいかの産地としての意気込みが高まり栽培面積が広がりました。また、昭和 11 年には、富里で生産されたすいかが皇室へ献上され「富里すいか」が確かな評価を得るようになりました。

右写真) すいか献上時の富里村西瓜栽培組合 集合写真



● 昭和中期 栽培が全域に拡大

戦時中は、作物作付統制令によって栽培面積が激減しましたが、戦後、昭和 23 年頃から再び栽培が本格化しました。昭和 30 年代になると、栽培が富里全域に拡大し、連作による病害対策として接ぎ木栽培が導入され普及しました。また、農業協同組合と出荷組合の一体化により検査・市場指定・計画出荷を行い、高値販売の実績を積み上げ、千葉県のスイカ「富里すいか」の名声を高めました。



● 昭和後期～現在 全国有数のすいか産地へ

現在、火山灰土質向き品種の育成・改良やビニールハウスなどの施設の導入、栽培技術の向上など、農家と関係者の長年の努力によって、全国有数のすいか産地となりました。

参考文献:「千葉県野菜園芸発達史」編さん会(千葉県庁農林部園芸課内).千葉県野菜園芸発達史.千葉県.1985



～富里すいかと旧岩崎家末廣別邸の 100 年～

三菱社第 3 代社長岩崎久彌が経営していた末廣農場でも、すいかの試験栽培が行われていました。

また、農場内に建てられた「旧岩崎家末廣別邸」主屋は、令和 9 年で築後 100 年を迎えます。

こうした節目を記念し、令和 9 年度に「富里すいか 100 年祭」と「旧岩崎家末廣別邸築後 100 年」の関連イベントを行うため、開催に向けて気運を高めていきます。

すいか一色に染まるイベント！すいかまつり

日時 6月 21 日(日) 9:00 ~ 15:00

場所 中央公民館ロビー・中央公民館前駐車場

内容



○すいか・農畜産物の販売



○カットすいかの無料配布



○すいか早食い競争

そのほか ○記念公演 オラクノ・マイカイみちこフラ&タヒチアンスタジオほか 4 団体のパフォーマンス披露

○富里ひずめ太鼓の生演奏 など



○すいか共進会

出品された富里すいかの展示・表彰式が、同日 21 日に行われます。

午後には、出品されたすいかの即売会を開催します。

(19 日 9:00 ~ 16:00 搬入・出品受付、20 日 10:00 ~ 15:00 審査)

詳しくは
こちら



富里すいかを
満喫できるイベントを
多数ご用意!